



長岡の文化世界に まずは子育て、会社の一員として

朝日酒造株式会社

毎朝一時間弱の道程を通勤している。2歳の子どもを保育園に預けて、ご主人の協力は不可欠であろう。会社では、管理部に所属し、中国人ながら受付や電話対応をしている。清酒も世界に広めなければならない時代、彼女は4ヶ国語を話す。近い将来、長岡の文化を世界に発信する担い手として活躍できればと期待は膨らむ。

II 市民協働 story II

朝日酒造は、ホテルやもみじの里づくり、公益財団法人こしじ水と緑の会を支援している。それは、清酒製造に欠かせない水や米の品質を守るためであるが、一企業では出来ないことを地域の方々と共に活動している。企業も地域の一員であるという事例です。

この地域に溶け込み、共に歩んでいきたい

高 香淑 (こう こうしゆく) 32歳

私は日本に来て十年が経ちました。十年の間では、前半は学生生活を送りました。後半は朝日酒造の社員として今現在も朝日酒造の一員であります。

大学生のときは、もちろん昼は学校に通いました。もうすでに成人をし、親に負担を重くしたくないために、夜は飲食店でアルバイトをしていました。バイト先はご夫婦が40年以上経営している飲食店です。頑固親父と優しいお母さんです。一人しかいない従業員の私に対しては、しかも外国人であったため、最初はお互いに苦労しましたが、いつの間にか家族のようになりました。そこで、私も日本酒を好きになり、久保田、越州との出会いが始まったわけです。長く経営しているお店なので、常連客も数え切れないほどです。もちろん日本酒を好きな方が大勢集まります。この店では皆さんに本当にお世話になっておりました。日本語、日本文化、日本地理などを教えていただきました。おまけに新潟弁や長岡弁も教えていただきました。もちろん中国について、朝鮮族に関することも聞かれたら、私が知ってる限りのことを教えました。こうやって、日々の付き合いと交流で皆さんの親交が深まり、プライベートでも山菜採りや温泉めぐりに行ったこともあります。一人で日本に来た私が、もう一人ではないと思い、そう思うだけでも頑張れました。また大学を卒業して、結婚、入社、出産、次々と人生の中で大きなイベントを経て、今は朝日酒造の一員として頑張っています。朝日酒造はお酒を製造しつつ、地域貢献も大事にする会社であります。私は入社してからまだ浅いですが、早くこの地域に溶け込み、共に歩んでいきたいと思えます。

